

猛暑の中でも安定して開花する 夏秋スプレーギク新品種が今夏デビューします！

【花き研究担当：45-2143】

キクは佐賀県の花き生産の重要品目ですが、近年の地球温暖化に伴う夏期を中心とする高温の影響により、夏秋ギクでは開花遅延や奇形花が発生し、計画生産に影響を及ぼしています。

そこで当センターでは、高温耐性に優れ近年の猛暑の中でも安定生産ができる黄色の夏秋スプレーギクの新品種「佐賀SK36号」および「佐賀SK37号」の2品種（2025年6月17日 品種登録出願公表）を開発しました。この夏より市場にデビューします。



佐賀SK36号

- 花色はレモンイエロー
- 花弁はやや剣弁で一重咲き
- 花の大きさは中輪



佐賀SK37号

- 花色は濃い黄色
- やや小輪の半八重咲き
- 多花性でコギクに似た草姿

特長① 高温下でも開花遅延や奇形花がほとんど発生しない

特長② 高温下でも花色が鮮やかで切り花品質が優れる

特長③ 電照抑制栽培により7～10月上旬開花作型に導入できる

特長④ 高温長日下でもシェード栽培による短日処理が不要

高温期の安定生産につながるように普及推進を図っており、今年度から現地で施設栽培が始まっています。露地栽培に関しても技術確立に向けて現在取り組み中です。

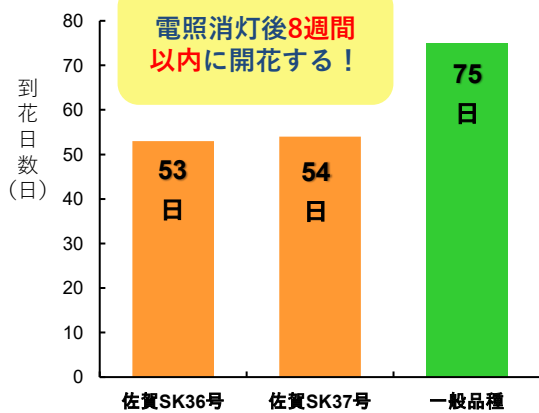


図. 電照消灯から開花までの日数
(2024年8月開花作型)

表. 当センターの施設栽培での各開花作型における開花特性

作型 (試験年)	品種	平均 開花日	到花 日数 (日) ²	切り花長 (cm)	80cm 調整重 (g)	奇形花 発生株率 (%)
7月開花 (2020)	佐賀SK36号	7月9日	51	99.3	68.1	0.0
	佐賀SK37号	7月8日	50	97.1	71.6	0.0
8月開花 (2020)	佐賀SK36号	8月4日	49	110.1	50.6	0.0
	佐賀SK37号	8月6日	51	100.4	68.0	0.0
9月開花 (2020)	佐賀SK36号	9月8日	49	94.7	55.2	0.0
	佐賀SK37号	9月13日	54	87.7	64.4	0.0
10月開花 (2021)	佐賀SK36号	10月4日	46	95.1	53.1 ^y	0.0
	佐賀SK37号	10月6日	48	82.8	63.2 ^y	0.0

² 電照消灯から開花までに要した日数

^y 85cm調整重の測定値

研究成果の紹介

水稲中生品種「ひなたまる」の穂肥診断基準を策定しました

【作物栽培研究担当：45-8807】

令和7年産から作付けが開始された水稲新品種「ひなたまる」は多収で病害虫・高温登熟耐性に優れる品種として期待されています。

品種特性を活かし、昨今の温暖化の中でも安定した収量・品質を確保するためには、生育に合わせた栽培管理が重要です。

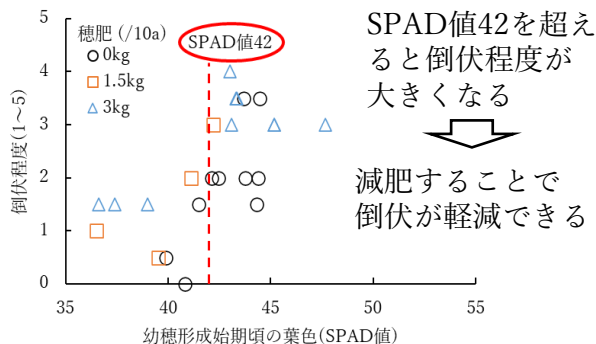
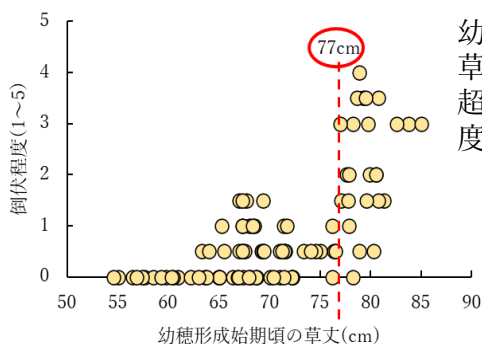
そこで、幼穂形成始期頃の草丈と葉色(SPAD値)を用いた穂肥施用量の診断基準を策定しました。

診断に基づき穂肥施用量を調節することで、倒伏を回避し、高品質・多収となることが期待されます。

【「ひなたまる」穂肥診断基準】

草丈	葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 (窒素成分/10a)
77cm以上	42 以上	施用しない
	42 未満	3kg
77cm未満	42 以上	1.5kg
	42 未満	3kg

注1)草丈、葉色は幼穂形成始期(幼穂長1mm)の測定値

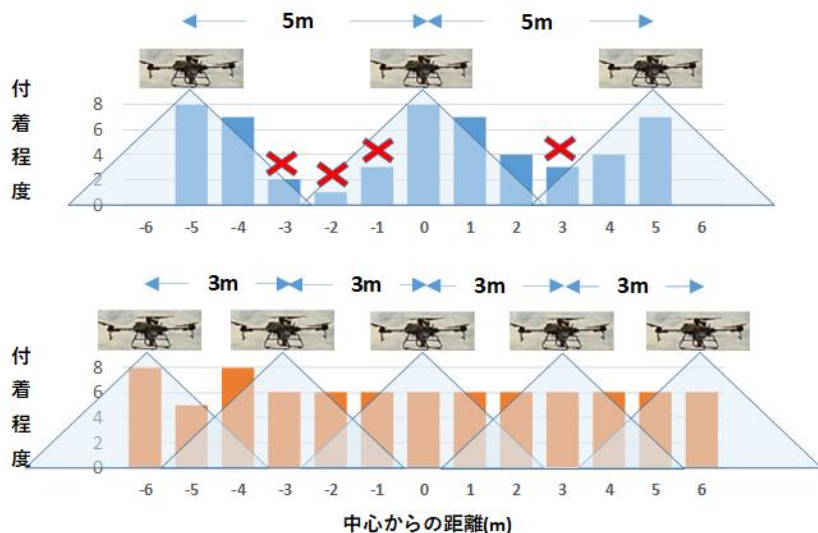


タマネギのドローン防除 ムラのない散布を行うために！

【病害虫・有機農業研究担当：45-8808】

近年、本県のタマネギの病害虫防除でもドローンが導入されるようになりました。当センターでは、散布された薬液が圃場全体に均一に付着するための、飛行速度や散布幅(何メートルおきに横移動しながら飛行すればよいか)について調査しています。

以下は機種T10でマンゼブ剤を3.2L/10aで散布する際の基礎試験結果です。散布幅5mでゆっくり飛行するよりも、散布幅3mでやや速い速度で飛行した方が、付着むらが解消されます。



散布幅 5m
時速6.8km/h
時間 2.04分/10a

散布幅 3m
時速11.2km/h
時間 2.25分/10a

研究成果の紹介

中山間地域における初夏どりブロッコリーの品種を選びました！

【山間農業（畑作）研究担当 56-2040】

中山間地域の初夏どりブロッコリーは、ピーマン農家を中心に栽培されております。夏季冷涼な気象条件を活かし、ピーマンの農閑期にあたる5～6月の出荷を想定した作型及び品種を検討しました。

その結果、早く定植すると遅霜による欠株や生育不良が多く発生し、一方で遅い定植だと梅雨による大雨の影響で病害や生育不良がみられました。その間となる4月4日定植では、可販収量が最も多く、特に品種‘トップスター’が有望でした。

【三瀬分場での試験結果】

定植日	収穫日	品種	可販収量 (kg/10a)
3/20	5/26	トップスター	648.8
		ジェットドーム	690.1
		夢はやて	777.1
4/4	6/6	トップスター	1018.2
		ジェットドーム	886.4
		夢はやて	966.3
4/10	6/12	トップスター	855.7
		ジェットドーム	879.9
		夢はやて	795.4



品種比較試験の栽培圃場

トピックス

タマネギ栽培における自動操舵技術の活用に取り組んでいます！

【企画・スマート農業研究担当 45-2142】

企画・スマート農業研究担当では、市販の後付け自動操舵システムをトラクターや乗用管理機に搭載し、畝立て、薬剤防除、根切り・葉切りなどの一連の作業における作業精度の検証やオペレーターの作業難易度の軽減効果の調査を行っています。

後付け自動操舵システムはハンドル式の農業機械であれば、機種や年式を問わず装備が可能で、直進走行や旋回が自動化できます。作業難易度が軽減され雇用者などの非熟練者でも機械作業が可能となることで大幅な規模拡大が進むことを期待しています。



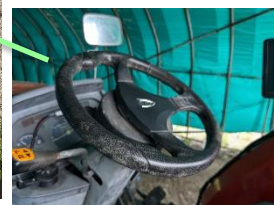
GNSSアンテナ
衛星からの位置情報を受信します。



後付け自動操舵システム
を搭載したトラクター



モニター
走行経路の設定
やシステムの管理を行います。



自動ステアリングホイール
(ハンドル)
受信した位置情報により、自動でハンドル操作を行います。

トピックス

多収で倒伏に強く、猛暑でも醸造適性に優れる酒米新品種「佐賀酒73号」

【作物育種研究担当 45-8807】

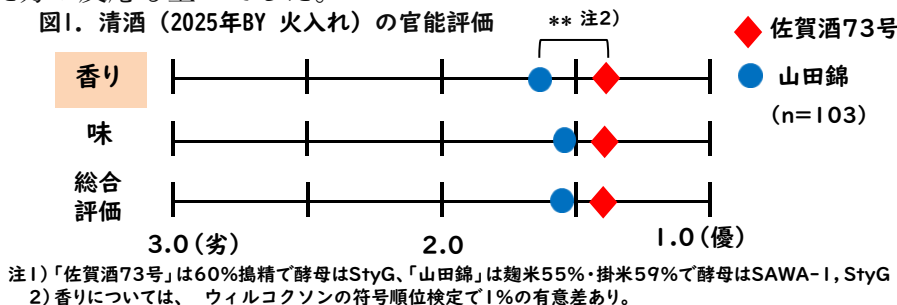
近年の猛暑の影響により、酒造りにおいて酒米の“溶け”が悪化し、原料の歩留まり低下が問題となっています。また、県内酒蔵の需要に対して県産酒米の供給が追いついておらず、酒蔵からは良質で安定した酒米の生産が求められています。こうした課題を解決するため、新たな酒米品種「佐賀酒73号」を開発しました。本品種は「山田錦」と比較して収量が多く、稈長が短くて倒伏に強い栽培しやすく、県産酒米の安定生産に貢献することが期待されます。さらに、玄米は大粒で、心白は線状で小さく高度搗精が可能です。



(写真左) 佐賀酒73号
(〃 右) 山田錦

県内酒蔵における令和7年産「佐賀酒73号」を100%使用した清酒の試験醸造の結果、もろみの溶けが良好で醸造適性に優れると評価され、県関係者103人を対象に実施した清酒の官能評価においても「山田錦」と同等の高い評価を受けました(図1)。また、この試験醸造酒は「鹿島酒蔵ツーリズム®2026」で販売され、試飲された方の反応も上々でした。

図1. 清酒(2025年BY 火入れ)の官能評価



作物栽培研究担当 職員の紹介

当研究担当では、水稻、大豆及び麦類の安定多収栽培や省力栽培技術の開発、品質向上対策、雑草防除技術の開発に取り組んでいます。新品種の普及に先駆けた栽培方法の開発も行い、近年では、水稻新品種「ひなたまる」や大麦新品種「はるか二条」等の栽培技術を確立しました。

また、大規模経営を可能とするための「水稻乾田直播栽培」技術の確立にも着手しています。その他、水稻、大豆、麦類の作況試験も実施し、「米づくり情報」や「麦づくり情報」を発信して、生産者や指導者の皆様にご活用いただいています。この情報は農試のホームページ上でご覧いただけます。



新規採用職員の紹介

4月から新規採用職員として勤務しています



白石分場 病害虫・有機 作物栽培
荒木 祥磨 百崎 諒 馬場 海希

発行所
佐賀県農業試験研究センター
(企画調整部 企画・スマート農業研究担当)
〒840-2205 佐賀県佐賀市川副町南里1088
TEL 0952-45-2142
FAX 0952-45-8801
E-mail nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

佐賀県農業試験研究センター 検索

当ニュース記事を利用される場合は、御一報ください。